

令和6年度留萌市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田面積の約6割で主食用米の作付けが行われており、残り4割で転作作物であるそば、飼料用作物、小麦、大豆等の作付けが行われている。近年、主食用米の需要が減少し、主食用米から転作作物への転換が進んでいるが、新たな機械投資の必要が生じることから、市場での需要が高い麦・大豆への転換には至らず、そばの面積が拡大している現状にある。また、農業者の高齢化や担い手の減少により、農家人口、農家戸数は年々減少傾向にあることから、今後の農業を担っていく農業従事者及び営農組織等の育成が重要な課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域は、中山間地域特有の不整形で小さな圃場が多く、地形的に大規模機械化経営の育成には制約が多いのが現状である。

このような中で安定的な農業経営の継続・育成を図るため、高品質米の生産を主としながら、土地利用型作物である麦・大豆の生産力強化のほか、経営規模に応じて、野菜や花きといった施設園芸による高収益作物を取り入れながら、経営の安定に努めてきた。

主力となる水稲に限らず、麦や大豆等の労働力や生産コストの低減を図るためにも、ドローンやGPS等を活用したスマート農業の取組みを推進しながら、労力軽減に努めることとし、施設園芸については、栽培の北限といわれる花きのトルコギキョウ等、より高収益な品種の選定のほか、高品質な花きの生産に努める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域の担い手は年々減少傾向にあり、規模拡大を含め稲作栽培への依存度と需要は高いため、水田を維持していくことを基本とするが、産地として水田利用状況については今後も点検していき、その結果や作付け状況に応じて畑地化を進めていく。

このため担い手の育成はもとより、今後は農地の集約化、簡易基盤整備の推進により、労働力の軽減を図るほか、スマート農業へのインフラ整備を図り、低コスト生産の確立を図っていく。

また、麦・大豆の連作障害を避けることを目的としたブロックローテーションの構築について、関係機関と連携しながら試験研究を行っていく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米づくりの徹底と安定した高品質米を生産することにより、米の主産地としての地位を確保しながら、需要動向や集荷業者等の意向に沿った米の生産を行うこととし、配分数量については、JAるもい間での数量の移動は可能とする。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 備蓄米

政府備蓄米の買入入札における落札数量に応じた取組みを推進する。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

JA るもいで取り扱い、現行の栽培面積を維持する。

イ WCS用稲

地域の需要者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(4) 麦、大豆、飼料作物

麦・大豆については、更なる作付面積の拡大を目指し、他の作物から麦・大豆への転換につなげる。

飼料作物については、地域の実需者との契約に基づいた安定生産のほか、地域外への販売を促進し栽培面積の維持を目指す。

(5) そば、なたね

土壌条件の改善を図り、収量及び品質の向上を目指す。

(6) 地力増進作物

大豆の輪作体系に地力増進作物（エンバク、ヒマワリ、トウモロコシ、クローバ、ライムギ、ヘイオーツ、ソルゴー、スーダングラス、ベッチ類）を取り入れ、収量の安定化と高品質化を目指す。

(7) 高収益作物

「スイートコーン」「南瓜」「アスパラガス」「ホウレンソウ」「ピーマン」「ミニトマト」を振興品目として面積拡大を目指す。また、今後、新規就農が見込まれる花きについても、振興品目に位置づけ、所得向上・面積拡大につなげる。

5 作物ごとの作付予定面積等

～

8 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

作物等	前年度作付面積等		当年度の作付予定面積等		令和8年度の作付目標面積等	
		うち 二毛作		うち 二毛作		うち 二毛作
主食用米	379.4		396.2		396.2	
備蓄米	19.5		0			
飼料用米	4.2		11.8		11.8	
米粉用米						
新市場開拓用米						
WCS用稲	19.0		19.7		19.7	
加工用米						
麦	81.8		77.9		77.9	
大豆	45.3		41.2		41.2	
飼料作物	74.8		74.1		74.1	
・子実用とうもろこし	1.6		1.6		1.6	
そば	86.5		90.9		90.9	
なたね						
地力増進作物	2.2		2.1		2.1	
高収益作物	5.9		6.1		6.1	
・野菜	4.6		4.7		4.7	
・花き・花木	1.3		1.4		1.4	
・果樹						
・その他の高収益作物						
その他	21.5		20.1		13.7	
・土地改良	6.7		6.4			
畑地化	11.8		5.2		12.0	

※ 畑地化の面積については、前年度作付面積等は内数、当年度及び令和8年度作付予定面積等は外数で計上しており、記載方法が異なります。

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度（実績）	目標値
1	麦、大豆	戦略作物加算	作付面積（麦）	（令和5年度） 81.8ha	（令和8年度） 77.9ha
			単収（麦）	（令和5年度） 342kg	（令和8年度） 340kg
			作付面積（大豆）	（令和5年度） 45.3ha	（令和8年度） 41.2ha
			単収（大豆）	（令和5年度） 232kg	（令和8年度） 220kg
2	振興野菜、花卉	地域振興作物助成	作付面積	（令和5年度） 4.0ha	（令和8年度） 4.2ha
3	そば	振興作物生産性 向上加算	作付面積	（令和5年度） 86.5ha	（令和8年度） 90.9ha
			単収	（令和5年度） 76kg	（令和8年度） 74kg
4	飼料作物 （牧草・子実用とうもろこし） （WCS用稲・飼料用米を除く）	飼料作物団地化 促進加算	作付面積	（令和5年度） 74.8ha	（令和8年度） 74.1ha
			取組面積	（令和5年度） 73.1ha	（令和8年度） 74.1ha
5	野菜 （地域振興野菜を除く）	地域戦略作物 作付助成	作付面積	（令和5年度） 1.9ha	（令和8年度） 1.9ha
6	そば	そば助成	作付面積	（令和5年度） 86.5ha	（令和8年度） 90.9ha
7	地力増進作物	地力増進作物助成	作付面積	（令和5年度） 2.2ha	（令和8年度） 2.1ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名:北海道

協議会名:留萌市農業再生協議会

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価 (円/10a)	対象作物 ※3	取組要件等 ※4
1	戦略作物加算	1	11,800	麦、大豆	土壌改良技術の導入等
2	地域振興作物助成	1	36,800	振興野菜・花卉	作付面積に応じて支援
3	振興作物生産性向上加算	1	7,600	そば	土壌改良技術の導入等
4	飼料作物団地化促進加算	1	10,200	飼料作物(牧草・子実用とうもろこし) (WCS用稲、飼料用米を除く)	団地化の形成、利用供給契約又は自家利用計画
5	地域戦略作物作付助成	1	13,300	野菜(地域振興野菜を除くトマト、きゅうり、なす、大根、白菜、ニラ、イチゴ、キャベツ、人参、馬鈴薯(でん粉原料用を除く)、カブ、ねぎ、こまつな、レタス、チンゲンサイ、ハーブ、チソ、メロン、ナンバン、パプリカ、カラビーマン、シントウ、いんげん、サヤマメ、ササギ、えんどう、オクラ、ゆうがお、にんにく、ごぼう、長芋、さつまいも、西瓜、ブロッコリー、カリフラワー)	作付面積に応じて支援
6	そば助成	1	20,000	そば	作付面積に応じて支援
7	地力増進作物助成	1	20,000	エンバク、ヒマワリ、トウモロコシ、クローバ、ライムギ、ハイオーツ、ソルゴー、スーダングラス、ベッチ類	作付面積に応じて支援

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的な要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

8 産地交付金の活用方法の明細

1. 地域農業再生協議会名

留萌市農業再生協議会

2. 活用予定額の総括表

(単位:円)

協議会等名	配分枠 (A+B)		活用予定額
	当初配分 (A)	追加配分 (B)	
留萌市農業再生協議会	30,322,000	30,322,000	30,313,010

(注)追加配分が未定の段階にあつては、該当箇所を空欄により作成することとします。

3. 活用方法

配分枠

30,322,000円

整理番号	用途 ※1	作期等 ※2	単価① (円/10a)	面積 (a単位)※3														合計 ② ※5	所要額 ①×② (円)	(参考) 支援年限 ※7		
				戦略作物							新市場開拓用米	そば	なたね	地力増進作物	高収益作物						その他	
				麦	大豆	飼料作物	米粉用米	飼料用米	WCS用稲	加工用米					野菜	花き・花木	果樹					その他の 高収益作物
1	戦略作物加算	1	11,800	7,787	4,125													11,912	14,055,688	令和8年度		
2	地域振興作物助成	1	36,800											281	139			419	1,543,392	令和8年度		
3	振興作物生産性向上加算	1	7,600								9,086							9,086	6,905,056	令和8年度		
4	飼料作物団地化促進加算	1	10,200			7,410												7,410	7,558,302	令和8年度		
5	地域戦略作物作付助成	1	13,300											188				188	250,572	令和8年度		
6	そば助成	1	20,000															0	0	令和8年度		
7	地力増進作物助成	1	20,000															0	0	令和8年度		
合計(基幹)※4			実面積	7,787	4,125	7,410								9,086								
合計(二毛作)※4			実面積																30,313,010			

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 「面積」は、当初配分により支援を行う用途について記入し、追加配分により支援を行う用途については、追加配分額が未定の段階にあっては空欄としてください。

※4 「合計(基幹)の実面積」は、基幹作を対象とした設定の実面積を記入し、「合計(二毛作)の実面積」は、二毛作を対象とした設定の実面積を記入してください。

また、「合計②」欄は、基幹作、二毛作それぞれの実面積の合計を記入してください。

※5 ②の合計は、各用途の合計面積を記入してください。

※6 所要額欄の二重枠には、所要額の合計を記入してください。

(注)用途ごとに「産地交付金の活用方法の明細(個票)」を添付してください。

※7 支援年限を記入してください。(支援期間の最終年度を「令和〇年度」と記入し、ない場合は「なし」と記入してください。)

4. 追加配分等を受けた場合の調整方法

【整理番号1～5】

上限単価に対し、一律の割合で単価を調整

調整後単価 = 上限単価 × ((当初配分 + 追加配分) ÷ (整理番号6.7以外の上限単価ベースの所要額))

端数処理: 取組面性が大きいものから百円未満を切上げし、切上げた際に配分額を超過する場合は切捨てとする。

【整理番号6～7】

20,000/10a × 作付面積で積算済み(調整は行わない)

※新市場開拓用米は活用しない。

5. 所要額が配分枠を超過した場合の調整方法

配分額の範囲内で一律に単価を調整

調整後単価 = 調整前単価 × ((配分額 - 整理番号6.7の所要額) ÷ 整理番号6.7以外の所要額)

※調整後単価は、取組面性が大きいものから百円未満を切上げし、切上げた際に配分額を超過する場合は切捨てとする。

※取組に応じた配分については、当初単価を維持とする。

6. 高収益作物について

該当なし

注1 産地交付金で支援する作物のうち、高収益作物に該当する作物名(野菜、花き・花木、果樹除く)を記載してください。

注2 収益性のわかるデータを添付してください。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	留萌市農業再生協議会		整理番号	1		
使途名	戦略作物加算					
対象作物	【基幹作物】麦・大豆					
単 価	11,800円／10a (上限16,000円／10a)					
課 題	留萌市の麦は全道平均の収量から比べて約3割低く、大豆に関しても全道平均から大きく下回っている。原因として、重粘土からくる透排水性の不良が上げられる。排水対策など土壌条件の改善を行い、安定生産、収量の増加に繋げていく必要性がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積(麦)	目標	72.7	77.9	77.9	77.9
		実績	81.8	-	-	-
	単収(麦)	目標	340kg/10a	340kg/10a	340kg/10a	340kg/10a
		実績	342kg/10a	-	-	-
	作付面積(大豆)	目標	37.8	41.2	41.2	41.2
		実績	45.3	-	-	-
	単収(大豆)	目標	220kg/10a	220kg/10a	220kg/10a	220kg/10a
実績		232kg/10a	-	-	-	
内 容	対象作物において収量増加につなげるため、指定する土壌改良などの技術を2つ以上導入する取組を支援する。					
具体的要件	<p>○助成対象者：助成対象作物を作付した農業者</p> <p>○対象作物：麦・大豆</p> <p>○対象水田：地区内の水田</p> <p>○その他要件： ・ 次の何れか2つ以上の技術を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 土壌診断結果に基づく施肥投入 2. 心土破碎の施工 3. 土壌改良燐酸資材の施用 4. 酸度矯正資材施用（石灰類）※適期収穫推進のため 5. 汎用コンバインの利用 					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物： 営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン</p> <p>○その他要件：土壌診断書、土壌改良資材・酸度矯正資材購入明細（伝票等） 心土破碎機・汎用コンバイン作業日誌</p>					
成果等の 確認方法	令和6年12月末までに営農計画書により面積を確認。集荷業者（販売業者）が証明する品質区分別数量証明書などにより出荷量を確認。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	留萌市農業再生協議会			整理番号	2	
使途名	地域振興作物助成					
対象作物	【基幹作物】振興野菜・花卉					
単 価	36,800円／10a (上限50,000円／10a)					
課 題	留萌市の主要農作物は稲作であり、多くの農業者が作付けをしている現状で、農業者の78%が60歳以上の高齢者であることから、米の直接支払交付金がなくなった平成30年以降を期に離農者が増加することが懸念されている。離農者の増加を防ぐためにも、機械投資が少なく、高齢農業者でも高収益につながるが見込まれる野菜、花きへの転換、面積拡大が課題となっている。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	8.8	4.2	4.2	4.2
		実績	4.0	-	-	-
内 容	対象作物において、高収益作物(野菜・花き)を作付けする取組に対して支援する					
具体的要件	<p>○助成対象者：助成対象作物を作付した農業者</p> <p>○対象作物：Sコーン、アスパラガス、南瓜、ハウレンソウ、ピーマン、ミニトマト、花卉</p> <p>○対象水田：地区内の水田</p>					
取組の確認方法	<p>○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物：営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン</p> <p>○その他要件：販売状況を確認できる書類</p>					
成果等の確認方法	令和6年12月末までに営農計画書にて作付面積を確認する。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	留萌市農業再生協議会			整理番号	3	
使途名	振興作物生産性向上加算					
対象作物	【基幹作物】そば					
単 価	7,600円/10a (上限10,300円/10a)					
課 題	留萌市のそばの収量は全道平均よりも下回っている。原因として、重粘土からくる透排水性の不良や、刈り遅れによる製品率の低下にある。今後も安定して生産し、収量の増加を図るために、排水対策や適期収穫など生産性向上に資する取組を行う必要がある。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	108.6	90.9	90.9	90.9
		実績	86.5	-	-	-
	単収	目標	74kg/10a	74kg/10a	74kg/10a	74kg/10a
実績		76kg/10a	-	-	-	
内 容	対象作物において、生産性の向上を行うための技術を3つ以上導入する取組に支援する。					
具体的要件	<p>○助成対象者：助成対象作物を作付し、かつその他要件を満たした農業者</p> <p>○対象作物：そば</p> <p>○対象水田：地区内の水田</p> <p>○その他要件：次の何れか3つ以上の技術を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 土壌診断結果に基づく施肥投入 2. 心土破碎の施工 3. 土壌改良燐酸資材の施用 4. 酸度矯正資材施用（石灰類）※適期収穫推進のため 5. 汎用コンバインの利用 6. コントラクターの利用 					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物： 営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン</p> <p>○その他要件：土壌診断書、土壌改良資材・酸度矯正資材購入明細（伝票等） 心土破碎機・汎用コンバイン作業日誌・コントラクターへの申し込み書</p>					
成果等の 確認方法	令和6年12月末までに営農計画書により作付面積を確認。集荷業者（販売業者）が証明する品質区分別数量証明書などにより出荷量を確認。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	留萌市農業再生協議会		整理番号	4		
使途名	飼料作物団地化促進加算					
対象作物	【基幹作物】 飼料作物(牧草・子実用とうもろこし)(WCS用稲、飼料用米を除く)					
単 価	10,200円/10a (上限14,000円/10a)					
課 題	飼料価格が上昇していることから、畜産農家の経営を圧迫している現状がある。今後も安定して経営を続けていくためには、経費の削減に努める必要があるため、地域での飼料作物生産も必要であるが、留萌市はほ場一枚当たりの面積が小さく、効率的に栽培を行うためには団地化を促進することが不可欠である。また、近年は高齢化が進み、留萌市の農村地域においても高齢化による離農及び後継者不足が大きな課題となっている。今後の耕作放棄地の発生を防ぐためにも、飼料用作物を栽培し、水田の維持(土壌透排水の改善、物理性の維持)もあわせて図っていく。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	85.2	74.1	74.1	74.1
		実績	74.8	-	-	-
	取組面積	目標	85.2	74.1	74.1	74.1
実績		73.1	-	-	-	
内 容	牧草・子実用とうもろこしを作付することで、水田の維持（透排水性改善、物理性の維持）を行う取組に対して支援し、放棄地拡大を防ぐ。					
具体的要件	<p>○助成対象者：飼料作物（WCS用稲、飼料用米を除く）を作付し、団地化要件を満たしたうえで、作付面積増加につなげ利用供給契約又は、自家利用計画が確認できる農業者</p> <p>○対象作物：牧草、子実用とうもろこし</p> <p>○対象水田：地区内の水田</p> <p>○その他要件：団地化要件は、1団地が概ね1ha（0.8ha）以上の面積で、2団地の取組の場合は1団地の面積が概ね0.5ha（0.4ha）以上とする。 利用供給契約又は、自家利用計画が整備されていること。</p>					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物： 営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン</p> <p>○その他要件：団地化圃場図、現地確認等、利用供給契約書、自家利用契約書</p>					
成果等の 確認方法	令和6年12月末までに営農計画書により作付面積を確認し、取組面積に関しては、利用供給契約書、自家利用契約書、作業日誌などにより確認。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。

協議会名	留萌市農業再生協議会				整理番号	5
使途名	地域戦略作物作付助成					
対象作物	【基幹作物】 野菜（地域振興野菜を除くトマト、きゅうり、なす、大根、白菜、ニラ、イチゴ、キャベツ、人参、馬鈴薯（でん粉原料用を除く）、カブ、ねぎ、こまつな、レタス、チンゲンサイ、ハーブ、チソ、メロン、ナンバン、パプリカ、カラーピーマン、シシトウ、いんげん、サヤマメ、ササギ、えんどう、オクラ、ゆうがお、にんにく、ごぼう、長芋、さつまいも、西瓜、ブロッコリー、カリフラワー）					
単 価	13,300円／10a （上限18,000円／10a）					
課 題	留萌市は古くから稲作を主要農作物としており、多くの農業者が作付けをしている現状がある。また、農業者の67%が60歳以上の高齢者であることから、米の直接支払交付金がなくなった平成30年以降を期に離農者が増加することが懸念されている。稲作農家からすぐに離農してしまう高齢農業者の増加を防ぐためにも、機械投資が少なく、少ない面積でも10aあたりの収入が高い野菜への転換を促し、生産の向上を図りたい。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	2.5	1.9	1.9	1.9
		実績	1.9	-	-	-
内 容	対象作物において、高収益作物（地域戦略作物）を作付る取組に対して支援する					
具体的要件	○助成対象者：助成対象作物を作付した農業者 ○対象作物：地域戦略作物 ○対象水田：地区内の水田					
取組の 確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物： 営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン ○その他要件：販売状況を確認できる書類					
成果等の 確認方法	令和6年12月末までに営農計画書により作付面積を確認する。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細（個票）

協議会名	留萌市農業再生協議会			整理番号	6	
使途名	そば助成					
対象作物	【基幹作物】そば					
単 価	20,000円／10a					
課 題	留萌市のそばの収量は全道平均よりも下回っているところであるが、今後も安定して生産し、収量の増加に繋げるため、適期収穫による収量の向上を目指す。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	108.6	90.9	90.9	90.9
		実績	86.5	-	-	-
内 容	対象作物において、作付けた農業者に対して支援する。					
具体的要件	<p>○助成対象者：助成対象作物を作付した農業者</p> <p>○対象作物：そば</p> <p>○対象水田：地区内の水田</p>					
取組の確認方法	○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物： 営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン					
成果等の確認方法	令和6年12月末までに営農計画書により作付面積を確認。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取り組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。

産地交付金の活用方法の明細(個票)金の活用方法

協議会名	留萌市農業再生協議会		整理番号	7		
使途名	地力増進作物助成					
対象作物	【基幹作物】地力増進作物(エンバク、ヒマワリ、トウモロコシ、クローバ、ライムギ、ヘイオーツ、ソルゴー、スーダングラス、ベッチ類)					
単 価	20,000円/10a					
課 題	主食米の過剰在庫によりニーズの高い畑作物へ転換する必要がある、水稲から転換する初年度は圃場が乾きにくく、畑作物の播種作業が遅くなることで、収穫時期の遅れによる品質の低下・減収が予測される場所であり、翌年に向け土づくりの取組みが必要である。輪作体系に地力増進作物を組み入れることで、収量・品質の向上を図り、翌年度の収益力向上を目指す。					
目 標			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	作付面積	目標	1.4	2.1	2.1	2.1
		実績	2.2	-	-	-
内 容	対象作物の作付けにより、地力増進を図る取組みを行う農業者に対して支援する。					
具体的要件	<p>○助成対象者：助成対象作物を作付した農業者</p> <p>○対象作物：地力増進作物（エンバク、ヒマワリ、トウモロコシ、クローバ、ライムギ、ヘイオーツ、ソルゴー、スーダングラス、ベッチ類）</p> <p>○対象水田：地区内の水田</p> <p>○その他要件：作付け後の鋤き込み、後作に畑作物の作付け なお、前年度及び前々年度の2年間連続で地力増進作物のみを作付けしていた農地に対する助成は行わない</p>					
取組の 確認方法	<p>○助成対象者・助成対象水田・助成対象面積・助成対象作物： 営農計画書、交付申請書、現地確認、水田収益力強化ビジョン</p> <p>○その他要件：種子の購入伝票、作業日誌などにより確認。</p>					
成果等の 確認方法	令和6年12月末までに営農計画書により作付面積を確認。					
備考	支援年限：令和8年度 ※支援年限については、打ち切るのではなく、基準年度に目標が未達成の場合、品目・単価・要件等の取組み内容について見直しを検討する					

※ 課題や目標の数値については、必要に応じて参考となるデータを添付してください。

※ 目標が複数ある場合は、欄を追加して全ての目標について記載してください。

※ 令和6年度から新規に設定した目標については、令和5年度の目標の記載は不要です。